５．各教科のキャリア教育

日々の学習内容が社会とどのように接点を持ち、将来につながっているのかということを実感し、社会が学びの延長上にあることを理解させるということが求められます。

今回は苦手意識の多い数学、生徒が親しみやすい音楽とキャリア教育について考えて見ました。

数学　わからない生徒達は苦しそうな顔をして授業を受けています。この勉強が何の役に立つのか、自分は文系だから苦手でもいいと思っている生徒も多々います。

数学科のキャリア教育目標は意欲的に探求する態度の育成と数学的に表現する能力の育成です。その意欲をまず引き出すことが難しいのです。

数学で身につく力は？と聞かれると大体の人は論理的思考と言いますが、多くの数学科の教員は「忍耐力」も身につくと感じています。難しい問題にじっくり取り組む、あきらめないで考える。基礎から応用に尻込みすることなく挑戦していく。解けなくても今までの知識と考え方を利用して様々な解法を導き解いていく。これがクリアできれば、楽しさも達成感も味わえ、さらに挑戦したいと意欲も出てくるはずです。そして考えれば、何とかなると思うことができれば、初めて見る問題へも果敢に挑戦していくことができます。

授業では問題の精選、そして一つの問題についても様々な解法があるので別解を他の生徒に板書させ説明させたりしています。生徒達はクラスメートの解法を賞賛し、時には感動から拍手が起こることもあります。このような授業を毎回できればいいのですが、なかなか難しいのが現状です。当然のことですが、社会の問題の方がはるかに難しいのですが、数学を学んだ経験を生かし、社会の問題に果敢に取り組んでいってほしいと思います。

音楽　授業では歌唱と楽器の演奏を指導しています。演奏することを通して人前で自己表現すること、お互いに批評し、よりよい演奏となることを目指しています。音楽の世界だけでなくどんな場面においても自分を表現する、お互いの良いところを認め合う、改善点は素直に受け入れるというこうことは大事ではないでしょうか。

また、芸術科では名作、名曲を鑑賞し、その良さや美しさを形作っているものは何かと考えること、感じる力を養えるような指導をしています。何故に美しいと感じるのか分析することは自分の好みの物がわかり、自己分析につながります。自分にあったよりよい選択につながります。

最近の授業では民族音楽を鑑賞、演奏しています。様々な国の音楽を理解することによって異文化理解につながるのではないかと考えます。戦争のような悲しいことが二度と起こらないようにしたいものです。

６．おわりに

キャリア教育の効果は徐々に表れているようです。授業改善に努め、日々の教育活動の中で教師側の考えを伝えることで生徒には学ぶことの意義が伝わるのではいかと思います。